

## 教育奨励賞



西森 久和

## 略 歴

2001年3月 岡山大学医学部医学科卒業  
2001年4月 岡山大学第二内科入局  
2001年6月 呉共済病院 内科  
2003年6月 癌研究会附属病院（現がん研有明病院）化学療法科  
2005年6月 岡山大学医学部・歯学部附属病院 医員  
2010年8月 岡山大学病院輸血部 医員  
2011年9月 岡山大学病院腫瘍センター 医員  
2012年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学 助教  
2015年4月 岡山大学病院血液・腫瘍内科 助教  
2018年9月 岡山大学病院臨床遺伝子診療科がんゲノム医療外来担当（兼務）

## 業績要旨

医学部教育では、教育企画委員を延べ6年担当し、うち2年は教育医長を務めた。「がん薬物療法」における一貫通貫の教育を重視し、3年次の「薬理学」、「腫瘍学」、4年次の「系統講義」、4～6年次の「臨床実習」を通じて、基礎となる知識が実践で活きる教育をしている。コロナ禍で対面での臨床実習が困難となった際には、骨髓検査手技や臨床腫瘍に関連した動画コンテンツを作成し、本学で運用している学習管理システム（moodle）上にアップしていつでも学生が視聴できる学習環境を整えた。また、骨髓穿刺・生検手技を疑似体験できるシミュレータ「骨髓戦士・セイケンジャー」を開発し、基本臨床実習に導入した。単なる手技の実践のみならず、検査を受ける方への声かけなどの配慮を含めた全人的実習を展開した。このシミュレータは特許出願中であり、令和元年には内山工業株式会社との産学連携によって製品化し、全国の医学部や臨床研修病院で活用されている。

初期研修医教育では、医科卒後研修会議委員を延べ5年務めた。直接の指導や、電子カルテ記載の承認、臨床研修評価システム（EPOC）による評価に加えて、骨髓穿刺・生検シミュレータを活用した手技指導も実践した。

大学院教育では平成24年から3年間、がんプロフェッショナル大学院の助教として中国・四国11大学の多職種からなる大学院生が合宿形式で学習する「チーム医療合同演習」や、英語での講義・質疑応答を実践する場として「Global Oncology Seminar」を企画、開催した。また、がん薬物療法専門医取得のための「症例レポート添削システム」の構築など、双方向教育を積極的に展開した。

FDでは、がんプロフェッショナル養成基盤プログラムの一環としてミャンマーから医療人を招き、3年間で15名の医師を指導した。また、がん診療連携拠点病院における開催が指定要件とされる「緩和ケア研修会」のファシリテータとして岡山大学病院のみならず、岡山医療センター、岡山県医師会主催の研修会で指導に当たっている。

さらに、「学校がん教育」にも取り組んでいる。平成24年より岡山市と連携し、がん経験者の方々と共に出張授業を開始した。平成26年には「岡山県がんの教育総合支援事業・がんの教育推進協議会」の委員を務め、がん教育モデル授業を行った。また、学校教員、岡山大学教育学部生にもがん教育の指導内容について講義を行い、学習指導要領改訂に伴う令和3～4年度の中・高等学校での「がん教育全面实施」に貢献している。